



ハイレベルなプレーにくぎづけ 少年野球教室に136人が参加

9月7日八千代市営球場で日本生命野球部による少年野球教室が開催され、市少年野球連盟に加盟するチームから136人が参加しました。

この教室は、市と日本生命保険相互会社船橋支社との間で結ばれた、包括協定に基づいて実施されました。青少年の野球技術の向上を通じた、心身育成の強化を図ることを目的としています。

日本選手権大会で優勝3回、準優勝3回の実績を持ち、多くのプロ野球選手を輩出しているこの野球部。ハイレベルなプレーに子どもたちはくぎづけに。守備に分かれての指導では、捕球姿勢や動作の基本を学びました。



▲間近で見る木村投手の投球に思わず歓声が

市民伝言板 /

- やちよ市民公開講座 子どもの喘息のおはなし。医療センター小児科医やなないろこどもクリニックの先生が詳しく解説します。展示もあります。申し込み不要。当日直接会場へ。10月26日(土)14時~17時、福祉センター。八千代吸入療法研究会・早川☎481-5088
- 初心者向けステップエクササイズ・全3回 体を整える準備運動を行い、ステップの昇降運動を行います。ゆっくりな音楽に合わせて、楽しく有酸素運動しましょう。3回中どの日に参加しても1回は無料。11月1日・8日・15日いずれも金曜日10時~11時30分、ふれあいプラザ。ミント・今井☎405-0255
- 村上東中学校ふれあいバザー 飲食やゲームコーナー、吹奏楽部によるミニコンサート。11月2日(土)10時~14時、村上東中学校。同校☎482-0932

市民みんなが住みなれた地域で共に暮らし 参加する地域社会を目指して条例を制定



▲条例の制定にご尽力いただいた皆さんと成立を記念して

9月26日、第3回定例会で「手話言語の理解及び普及並びに障害の特性に応じたコミュニケーション手段に関する条例」が可決されました。

この条例の制定に向けては、八千代市聴覚障害者協会や、八千代市身体障害者福祉会をはじめ、市内の手話サークルなどと意見交換会を行い、当事者などの意見を参考に条例の内容を検討しました。

言語は必要な情報を手に入れ、お互いの意思を確認するために必要ですが、コミュニケーションを取るための手段はそ

れだけではありません。手話、筆談、点字、音声、絵、機械など、そのほかにもさまざまな方法があります。

障害を持つ人たちは、それぞれの特性に応じた手段が必要です。「手話は、言語である」から始まるこの条例。障害者のコミュニケーション手段の選択について尊重することを、広く市民に理解してもらいたいという思いが込められています。市民みんなが、住みなれた地域で共に暮らし、一緒に参加する地域社会になることを目指します。



八千代高校「鼓組」から太鼓集団「鼓童」へ 地代純さんと三浦康暉さんが演奏

八千代市出身の二人は1992年生まれ。勝田台小学校に入学したときからの友人です。50の国と地域で6,000回以上の公演を行っている、太鼓芸能集団「鼓童」の研修所がある佐渡島へ渡り2年間の研修を経てプロのステージへ。

研修所では禁酒、禁煙、携帯電話、パソコン、テレビ、恋愛も禁止。朝5時に起床して体操やランニング、掃除、太鼓の稽古などを行い、

夜10時に寝るという日々。自然豊かな土地で感性を磨きながら、先輩たちから鼓童のDNAを受け継いできました。

地代さんは「自分が楽しまなければ、お客さんを楽しませることはできません」と、連続公演で体が辛いときでも演奏を楽しむことを意識しています。三浦さんは、最初の音が曲のできを左右するので、打ち出しの音をしっかり出すように心がけているそうです。

太鼓を始めるきっかけになったのは、八千代高校の鼓組。挨拶や整理整頓など生活面に厳しく、太鼓への向き合い方を教わりました。

当時、市民会館で見た鼓童の演奏に衝撃を受けたことがきっかけでこの道へ。今回の地元での公演には必然的に力が入ります。「何でもネットで見られる時代だからこそ、腹に響く生の音を体感してほしい」と三浦さん。「ファッションなど海外に目が向きがちですが、日本にも素晴らしいものがあることを知ってもらえたら」と地代さんは話します。

終始笑顔が絶えない二人。規律や日本の文化・伝統を大切にしながら心から太鼓を愛し、ひたむきに音づくりに情熱を傾ける姿が、頼もしく感じられ印象的でした。



▲今回市民会館のステージに立つ鼓組 OBの地代純さん(右)と三浦康暉さん(左)

●11月24日(日) 鼓童「道」の公演についての問い合わせは、市民会館☎483-5111へ

八千代歌壇

佐波 洋子選

F Mの「クラシックカフェ」をONにしてわたし一人の朝食となる
(八千代台西) 吉田 早苗

寝ねがての闇に聞こゆる牛車雨静かにふりいる明日は七夕
(八千代台西) 元村 泰介

遠き日に農家の主婦は茄子・トマト・カブト虫も持ちて売りに来たりき
(八千代台北) 石川 静子

太い幹が埴輪にも似た銀杏並木の整然と立てり夕陽の中に
(上 高 野) 上岡あや子

電車内「お忘れ物の無いように」あわてて探す持たぬ雨傘
(八千代台北) 村田 一江

身のほどにつましく生ききて買わ指輪七十六歳みずから祝
(村 上) 新井 豊子

香港のデモの映像眺めつつ樺美智子の面影偲ぶ
(八千代台北) 野村 邦夫

故里へ去る夏の日の墓参りぐるりと迂回原発の道
(勝 田 台) 杉本美恵子

日暮れどき宵待草の咲くさまは静かにゆっくりそわそわ開く
(桑 納) 石上 文枝

選評 一首目、一人であることが寂しさにならず、むしろ自分だけの贅沢な時間を豊かさとしてオシャレに楽しく出した。二首目、彦星が織姫を迎えるために牛車を洗う所から七夕の前日の雨を牛車雨という。言葉の発見が手柄だが、結句は説明的。三首目、農家の行商の婦人が野菜を売りに来た頃、甲虫をおまけにくれたとか。甲虫が回想を個性的にした。

やちよ川柳

八千代川柳連盟選

誕生日白寿の叔母の恵比寿顔高 津 岡田やほこ

幸せは一途の想い胸に秘め 村上団地 手塚 俊子

脹れ面しても芯は優しい子米 本 木村つるこ

天然の鯛の表示で二割高上 高野 廣田 高見

鯛でその日暮らしが秋を知る 緑が丘 関 正雄

税金を払う大人に育て孫 勝田台 喜田 橙

平和でも異常気象がかきまわす 八千代台東 篠崎ふみお

ドローンが宅配もする人不足 勝田台 板橋神無月

お日様が伸び伸びしりと影作る 勝田台 福島 つぐ

恋心守り通して共白髪 緑が丘西 佐久間千枝

独り身じゃ無いのと言われ飲むカメラ 八千代台北 渡邊ひろし

リサイクル・ガイド

消費生活センター☎483-1151(代表)
「ゆずります・無料」▼健康器具(足踏みペダル) ▼長机/高さ32cm×巾35cm×長さ180cm
◆市役所1階ロビーや市ホームページでもリサイクル品情報を紹介しています。